

リスタート構想に基づき家畜の原種ゾーンの展示を終了します ～ 移動動物のお別れリレーガイドを開催 ～

千葉市動物公園では、リスタート構想（平成26年3月）に基づく平原ゾーンの展示施設整備に向けて、家畜の原種ゾーンで現在展示中の動物を順次、移動する計画です。

このたび、ムフロン、トナカイを園外の動物園に、モウコノウマを園内の非公開区画に移動し、家畜の原種ゾーンの展示を終了しますので、お知らせします。

また、飼育担当者による移動動物のお別れリレーガイドを開催しますので、併せてお知らせします。

1 家畜の原種ゾーンの展示終了及び平原ゾーンの整備について

(1) 整備概要

家畜の原種ゾーンを再編し、猛獣を間近で観察できライオンやチーター等のパノラマ展示でアフリカ平原の生態風景を再現する平原ゾーンを整備します（整備区画は別紙参照）。

なお、今回の引っ越し後、家畜の原種ゾーンの展示は終了し、平原ゾーンとして整備しオープンする予定です。

※平成27年6月にアジアスイギュウとラマ、平成29年12月及び平成30年5月にアメリカバイソンをリスタート構想に基づき引っ越し済み

(2) 整備スケジュール

平成29年度	実施設計、展示動物の移動開始
平成30～31年度	家畜の原種ゾーンの閉鎖・整備着工（予定）
平成32年春	平原ゾーンオープン（予定）

2 移動動物のお別れリレーガイドの開催

(1) 日時

平成30年6月3日（日）13:10～13:40（天候により変更・中止の場合あり）

(2) 実施場所・開始時間

それぞれの動物の展示場前で行います。

トナカイ 13:10、モウコノウマ 13:20、ムフロン 13:30

(3) 内容

飼育担当者が各展示場前で、思い出等を交えたガイドを行います。

3 引っ越しの予定について（いずれも非公開）

(1) ムフロン

日程 平成30年6月6日（水）及び6月13日（水）

引越先 群馬サファリパーク（群馬県富岡市岡本1番地）

(2) トナカイ

日程 平成30年6月20日（水）

引越先 秋田市大森山動物園（秋田県秋田市浜田字潟端154）

(3) モウコノウマ

日程 平成30年6月27日（水）

移動先 園内ブリーディング舎（非公開区画）



ムフロン



トナカイ



モウコノウマ

<参考>

1 千葉市動物公園リスタート構想とは

開園後4半世紀以上が経過し、施設の老朽化や展示手法等の刷新が喫緊の課題となっていたことから、「千葉市動物公園の在り方に関する基礎調査結果」を踏まえ、老朽化、陳腐化している動物展示施設や展示形態の改善に早急に着手し、来園者満足度の向上を図り、再び賑わいを取り戻すことで、「市民に身近な動物園（私たちの動物園）としての存在と、都市の活性化につなげる集客観光施設として再生を図る」もので、平成26年3月に策定しました。

【これまでの取り組み】

- 平成27年度 ①平原ゾーン一部整備（ライオン展示場）
②ふれあい動物の里整備（遊園地跡地）
③正門広場改修
- 平成28年度 ①ライオン展示場、ふれあい動物の里オープン
②動物科学館レクチャールーム改修
- 平成29年度 ①平原ゾーン実施設計（チーター、ハイエナ、ヤマアラシ）

2 ムフロンについて

- (1) 種目 偶蹄目（ウシ目） ウシ科
- (2) 学名 *Ovis aries*
- (3) 大きさ 体長 オス 120～180cm メス 80～120cm
体重 90kg
- (4) 分布 イランなどの中東地域
- (5) 生態等 標高5千メートル以上の山地や断崖など様々な環境に生息しています。
草本、木の葉、果実、樹皮などを食べます。
本種が家畜化され、ヒツジになったといわれています。
紛争による影響や燃料用の森林伐採、家畜との競合などにより生息数は減少しています。
※IUCN レッドリスト絶滅危惧1B類（VU）に該当。

(6) 飼育頭数

- ア 千葉市動物公園 オス 5頭 メス 5頭 計10頭
- イ 国内飼育頭数（10園館）オス 139頭、メス 174頭、性別不明 30頭 計333頭

3 トナカイについて

- (1) 種目 偶蹄目（ウシ目） シカ科
- (2) 学名 *Rangifer tarandus*
- (3) 大きさ 体長 オス 180～210cm メス 160～200cm
体重 オス 100～320kg メス 60～170kg
- (4) 分布 アラスカ、カナダ、北欧、ロシアに生息

- (5) 生態 自然分布は北極圏周辺であり、群れを形成し、季節によって大規模な移動を行います。半家畜化された動物のため自為的な分布も多いです。
- (6) 特徴 シカの仲間では、唯一オス、メス共に角があります。角は1年に一度、角が抜け落ち、食べ物を探するために雪を掘ることや、繁殖期のオス同士の抗争などに使われます。オスの角はメスの角より大きいです。寒い地域に生息しているので、体の毛は長く、蹄は雪に沈まないように大きいです。古くから、家畜化されていて、人間とのかかわりも深いです。

(7) 飼育頭数

ア 千葉市動物公園 オス 1頭 メス 1頭 計2頭

イ 国内飼育頭数(8園館) オス 11頭、メス 24頭、性別不明 0頭 計35頭

4 モウコノウマについて

(1) 種目 奇蹄目(ウマ目) ウマ科

(2) 学名 *Equus przewalskii*

(3) 大きさ 体長 オス 250cm メス220cm

体重 オス 300kg メス280kg

(4) 分布 モンゴル西部の草原、平原などの乾燥した地帯

(5) 生態等 オス1頭をリーダーとして、メスと子どもたちとの群れをつくり暮らしています。体色は黄褐色でたてがみが短いのが特徴です。高低差のある平原をかけるため、前後の脚が太くなっています。今までに家畜化されたことがない野生の馬として位置づけられてきました。

(6) 飼育頭数

ア 千葉市動物公園 オス1 メス 1 計2頭

イ 国内飼育頭数(2園館) オス 6頭、メス 10頭、性別不明 0頭 計16頭

※国内飼育頭数は「日本動物園水族館協会資料(平成30年1月31日現在)」引用